

令和元年度 第3回 海老名市社会教育委員会議内容

日時：令和元年10月15日（火）

10:00～12:00

場所：えびなこどもセンター201会議室

【出席者】

委員	井出 操、植松 慶子、加藤 秀夫、栗山 明郎、三部 雅世、塩地 ひとみ、橋本 絵美里、森田 壽、山田 信江
事務局	伊藤教育長、伊藤部長、萩原次長、外村課長、山田課長補佐、小菌主幹、橋本主任主事
指定管理者	高橋館長、平賀館長

【議事】

(1) 社会教育計画の策定について

事務局から説明

～質疑応答～

① 海老名市の社会教育の目標と目指す方向性について

委員：「学校を地域のキーステーション」というのはまさにその通りだと思う。

委員：「海老名が大好き、夢をもてるえびなっ子」は「えびなが大好き、～」のようにひらがなの方が柔らかく親しみやすい。

事務局：そのように変更します。

委員：団体同士の交流を図ることで、お互いの団体の良さを分かってもらうことが改善につながる。交流することで、新たな気付きがあり、それを自身の団体に反映していくことが大事。

委員：社会教育団体といったときに、範囲が広いと感じるのと、どの程度までの団体とかわかっていく必要があるのか見えてこない。それが規模なのか、団体の目的によるものなのか。

事務局：基本的には、すべての団体と考えるが、それらも含めてこの社会教育会議で検討する必要がある。

② 社会教育団体の連携について

委員：開催するシンポジウムには、まずは学び支援課が所管する団体のみが対象となるのか。

事務局：そうではない。今後、他の部署が所管する団体にも照会をかけ、それらすべての団体を対象とする。

委員：現在の活動の分析はよくできている。「海老名を好きになる子」という目的の活動が少ないということではあるが、例えばシルバー人材センターの方が清掃や環境

の整備をして頂いていることで、海老名市はきれいな街という評価もある。それらが「海老名が好きになる子」につながる活動でもある。

委員：「海老名が好きになる子」というのは、他市との比較が難しいとも思う。色々な活動を行うことで海老名を好きになってくれればよい。

委員：「海老名が好きになる子」には、大人たちが海老名の魅力や良いところを知って、子どもたちに伝えていくことも必要だと思う。

③ 社会教育活動の充実に向けて

委員：シンポジウムについて、年一回であるならば小中学校ではなく文化会館で行ったほうが良い。

委員：文化会館ではなく、小中学校で実施しようと考えた理由を再度説明していただきたい。

事務局：団体の紹介や体験できる場を作るにあたり、運動公園や文化会館も候補ではあった。しかしながら、子どもたちや保護者等の参加する利便性を考え、各小中学校とした。シンポジウム自体は、文化会館等を考えている。

委員：小中学校19校での同時開催は難しいと思う。例えば、小中学校で行っているイベントの中にブース等をもうけさせていただく形はどうだろうか。

委員：各小中学校では、地域の方を交えたイベントは、名称は違えど必ず行っている。

委員：イベントに参加するのは小学校の低学年のお子さんが多いが、社会教育の体験や交流を小学校高学年～中学生にも多く参加していただきたい。

委員：小中学校ではなく、中学校ごとにするると6校なので可能になるかもしれない。

委員：海老名市内の他団体を知ることも大事ではあるが、神奈川県協議会等に積極的に参加し、他市の情報を得ることも社会教育委員の役割であると思うし、それらを伝えていく必要性もある。

事務局：シンポジウムや社会教育デーの具体的な日程や場所については、今後の社会教育委員会会議で決めていきたい。

(2) 海老名市立図書館について

事務局及び指定管理者から説明

委員：利用者アンケートの結果をもとに改善を図っていただきたい。

指定管理者：アンケート結果を分析して随時課題を解決していきたい。

委員：「英語でお話し会」のイベントの写真を見ると大人気のように思える。オリンピックもあるので、このような試みは良いと思う。

委員：学校支援事業として、支援員の方が学校で色々取り組みをされているのは素晴らしいこと。展示やレイアウトも素敵なので、今後も継続していただきたい。

委員：改修にあたって、棚や家具類を新調されるということであるが、地元で家具を手作りしている方がいる。そういった方の家具を取り入れても良いのではないか。

指定管理者：参考にさせていただきます。